

全国小さくても輝く

11(平成23)年
11月5~6日
岡山県奈義町

自治体フォーラム

第16回

今年3月11日に発生した東日本大震災は、地震・火災・津波の被害も多様かつ大きく、また被災した地域が広範囲に及びました。住民の暮らしと生業、地域経済の復旧・復興にむけ、懸命な努力が始まっています。同時に、東京電力の福島第一原発の事故は収束の気配もなく、今なお住民と自治体はその渦中に巻き込まれていることは残念に思います。

役所・役場自体が大きく被害を受けた地域もあるにもかかわらず、他地域の自治体職員の少ない応援を受けつつも、被災者援助に頑張ってきたのは自治体です。被災地にかぎらず被災者の避難生活を支えているのも自治体です。これはコミュニティに手が届く自治体だからこそできたということに私たちは誇りをもつとともに、このような努力を、全国の連帯の力で支えるべきだと痛感します。



地方分権改革は時代の流れでもありますが、それには基礎自治体である市町村が権限と財源とを保障され、同時に、小規模自治体に対する都道府県や国による適切な補完がなされなければ、真の分権改革とはいえません。これまでの「平成の市町村合併」や「三位一体の改革」によって、都市対農村、東京対地方の格差が極限まで拡大している今日、そうした深刻な格差を是正する方向と、いずれの地域に住んでいても憲法で保障された文化的な生活と個人の社会権とを保障できるための地方自治体でなければなりません。また全国町村会も反対するように、道州制の導入は、小規模自治体やそこでの住民の生活基盤そのものを破壊することにもつながりかねません。第30次地方制度調査会の審議が始まりましたが、住民のための地方自治体がいきる答申を求めたいと思います。

さて、私たち、全国小さくても輝く自治体フォーラムの会は、これまで15回開催してきた「小さくても輝く自治体フォーラム」の伝統のうえにたち、さらに小規模自治体の魅力を高める取り組みと交流を日常的に強化し、お互いに切磋琢磨するとともに、小規模自治体の存在意義を全国民にアピールしていくことを決意し、恒常的な会員組織として設立いたしました。当初5月の開催を予定していた今回の奈義町での「フォーラム」は、恒常的な会員組織「全国小さくても輝く自治体フォーラムの会」として主催する2回目のフォーラムとなります。

岡山県の北東部、中国山地の秀峰「那岐山」の南麓に広がる奈義町は、四季折々の美しい自然に恵まれた町です。全国で市町村合併が進む中、平成14年に「合併をしない」ことを選択したまちでもあります。

奈義町は、昭和30年に3村が合併し誕生してから半世紀の間、自衛隊誘致をはじめ、農林業環境整備、工業団地への企業誘致、小中学校や現代美術館等の教育文化施設の整備などをすすめてきました。地域の観光や産業振興の発展へ向けた取り組みとしては、恵まれた自然環境を生かし、農村と都市との交流拠点として那岐山の裾野に整備した「那岐山麓山の駅」は、滞在型のリゾートスポットとして地域活性化の基盤となりました。美しい景観と緑に囲まれた同施設内にある山野草公園では、那岐山麓一帯に自生する貴重な山野草を保護しており、公園内を一望できる天空橋からの眺めは、心が癒される最高の空間です。文化面では、江戸時代後期から伝わる伝統芸能の横仙歌舞伎（岡山県重要無形民俗文化財）を保存伝承し、四季に定期公演を行うなど地域の歴史や伝統を大切に、芸術文化活動へも取り組んでいます。産業振興については、昨年度、今回のフォーラムの記念講演者の金丸先生を総務省地域力創造アドバイザーとしてお招きし、潜在する地域資源を活かした特産品開発、直売所の改革、農業体験と農家民泊など農・商・観連携の取り組みを行ってきました。

文化のまち奈義で、これまでの「フォーラム」の伝統を引き継ぎ、小規模自治体の活動を交流し、その意義と役割を全国民にアピールするためにも、これまで以上の方々に参加していただくよう、お願いいたします。

主 全国小さくても輝く自治体フォーラムの会
事務局 自治体問題研究所
催 現地事務局 / 岡山県奈義町総務課

〒162-8512 東京都新宿区矢来町123
電話 03-3235-5941 FAX03-3235-5933
<http://d.hatena.ne.jp/jichitai/forum/>

〒708-1392 岡山県勝田郡奈義町豊沢306-1
電話 0868-36-4111 FAX0868-36-4009

